

劣化損傷の評価と対応

(2016年11月30日追補)

この追補は、2014年7月1日に改訂された“劣化損傷の評価と対応”2014年版の追補である。したがって、今後、**JPI-8R-12-2014**とは、この追補も含むものとする。

なお、この追補は、石油学会ホームページ上で、該当箇所のみを示す。2016年11月30日の追補は次の箇所(赤字+囲み部)である。

JPI-8R-12-2014の該当頁:2-3, 12.13頁(管理番号 8R-12-2014 追補 01) 2

下線部 追記

~~二重取り消し線部 削除~~

3.1.2 水素侵食の発生範囲 水素侵食の発生限界は **API Publication 941** (第5版以降 **API RP 941**) のネルソン線図 (**図 3.1.11**) に示されている。しかし、このネルソン線図は、1949年の発表以降、設備の使用実績に基づいてたびたび改訂されており、1990年の第4版では、C-0.5Mo鋼の損傷事例にもとづいて、同鋼種の曲線が削除された。また、最新版(第7版、(2008年)では、1.25Cr-0.5Mo鋼の安全域における損傷事例が紹介されており、Cr含有量はいずれも同鋼種の下限值に近いものであったが、同鋼種の使用に対して注意喚起されている。さらに、**第8版(2016年)**では、溶接後熱処理を実施していない炭素鋼溶接部に関して、ネルソン線図の安全域における損傷事例が**数件報告されたことを受けて、従来の炭素鋼の曲線の下に新たに溶接後熱処理なしの炭素鋼溶接部の限界線が追加された**が最近いくつか報告されており、~~API RP 941~~ 委員会は高温水素サービスで使用されている溶接後熱処理未実施の炭素鋼機器と配管に対して、注意喚起している^[54, 55]。

石油精製装置において、水素侵食の発生の可能性がある主要装置及び系統を**表 3.1.1** に示す。これらの系統に設置されている設備には、一般的に、C-0.5Mo、1Cr-0.5Mo、1.25Cr-0.5Mo、2.25Cr-1Moなどの低合金鋼がネルソン線図に基づいて選定されている。また、防食を目的として、フェライト系ステンレス鋼、オーステナイト系ステンレス鋼などの耐食材料も使用されるが、これらは熱交換器チューブ若しくは設備内面のクラッド又はオーバーレイ材として使用される場合が多い。

なお、ステンレス鋼は、水素侵食に対し免疫的であるとされている。

JPI-8R-12-2014 の該当頁：12 頁 (管理番号 8R-12-2014 追補 01)

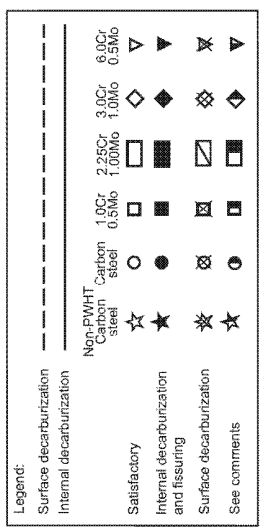
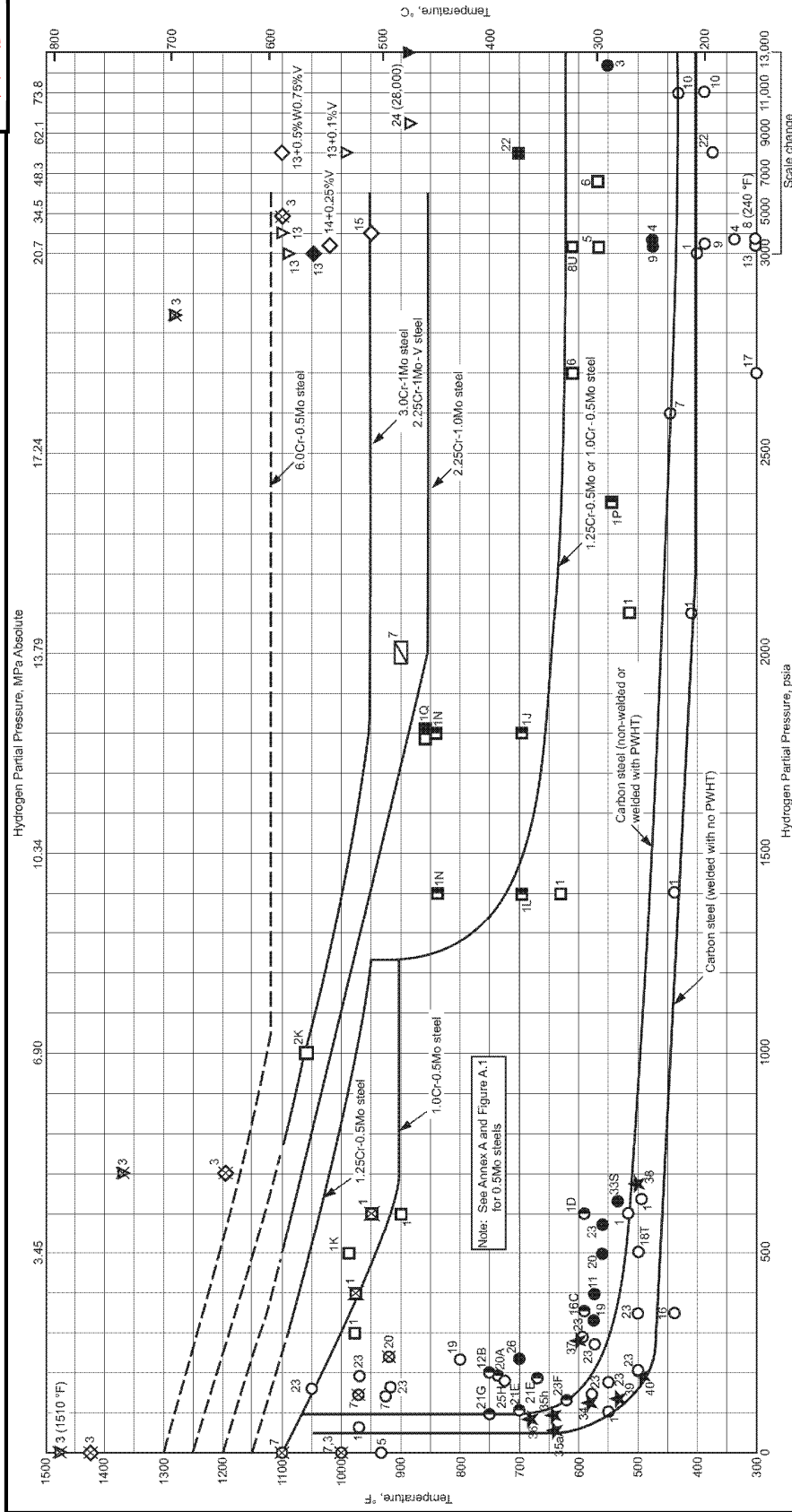
3.1.4 水素侵食に対する対応など

下線部 追記

~~二重取り消し線部~~ 削除

- d) 溶接後熱処理を実施していない炭素鋼溶接部に関して、~~最近、数件の~~海外での損傷事例が報告を
もとに 2016 年に限界線が見直 されていることから、~~ネルソン線図の境界に近い条件で~~この境界
条件を超えて運転している ~~するもの~~については、検査対象とする 必要がある ことが望ましい^[54]。
~~海外ではネルソン線図より 50° F / 50psi 下の範囲を検査対象とする例が報告されている^[55]。~~

図の修正



NOTE 1 The limits described by these curves are based on service experience originally collected by G.A. Nelson and on additional information gathered by or made available to API.

NOTE 2 Austenitic stainless steels are generally not decarburized in hydrogen at any temperature or hydrogen pressure.

NOTE 3 The limits described by these curves are based on experience with cast steel as well as annealed and normalized steels at stress levels defined by Section VIII, Division 1, of the ASME Code. See 5.3 and 5.4 in text for additional information.

NOTE 4 Several failures of 1.25Cr-1Mo-V steel have been reported in the satisfactory region. See Annex B for details.

NOTE 5 The inclusion of the 2.25Cr-1Mo-V class of steels is based on 10,000-hr laboratory tests where these alloys were at least equal to the 3Cr-1Mo steel. See Reference [22] listed in the Bibliography.

Copyright © 1967 by G.A. Nelson. Production rights granted by author to API.
 This figure was revised by API in 1969, 1983, 1996, and 2015.

図 3.1.11 ネルソン線図 (API RP 941 第 8 版)

下線部 修正